

特殊報第3号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者
} 殿

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予察特殊報第3号について

このことについて、病虫害発生予察特殊報第3号を発表したので送付します。

- 1 発生作物 チャ
- 2 病虫害名 ミカントゲコナジラミ *Aleurocanthus spiniferus*(Quaintance)
- 3 発生地域 星野村

4 特殊報の内容

(1) 発生確認の経緯

平成21年7月9日に福岡県農業総合試験場八女分場が、星野村中渡瀬の茶園において古葉に寄生している幼虫を採集し同定したところ、ミカントゲコナジラミであることが確認された。その後星野村の茶屋ヶ谷や合瀬等の茶園で分布が確認された。

そこで当所で8月20日、9月4日に中渡瀬の茶園の現地調査を実施したところ、卵・幼虫蛹及び成虫の発生を確認した。

本種は古くからカンキツ類の害虫として知られていたが、茶への寄生・加害は平成16年に京都府で初めて確認され、その後滋賀県、奈良県、三重県及び島根県でも確認されている。

(2) 形態及び生態

本種はカメムシ目コナジラミ科に属する。

成虫の体長は雌で約1.3mm、雄はやや小さい。体色は橙黄色であるが体表面が白粉で覆われているため、外観は灰色に見える。前翅は紫褐色で不整形の白紋がある(写真2)。

卵は古葉及び新葉の葉裏に産卵され、長さ約0.2mmの曲玉状で、短い柄がある。

孵化幼虫は淡黄色で、定着すると光沢のある黒色になり、3齢を経て蛹になる。

蛹は長さ約1mmの小判形で、光沢のある黒色で周囲に白色ロウ物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する(写真3、4、5)。

本県の茶での発生は年3~4回と考えられ、3齢幼虫や蛹で越冬し、星野村での成虫の発生時期は現在のところ7月中旬と9月上旬を確認している。成虫の寿命は約4日と短く、孵化幼虫は分散せず、群生する。

苗木による移動のほか、成虫が風によって分布を拡大する。

(3) 分布

本州以南の日本各地及びインド、中国、東南アジアに分布する。

茶では星野村以外での発生は確認されていないが、今後、県内での発生分布を調査する。

(4) 被害

成虫及び幼虫による葉の吸汁加害と、幼虫の分泌物によるすす病の発生が問題となる。摘採時期に成虫が多発すると、収穫作業者が本種を吸引するなど不快害虫となっている。

(5) 寄主植物

本種の主要な寄主植物はカンキツ類とされているが、ブドウ、カキ、ナシ、ビワ、バラ等多くの樹種に寄生する。

(6) 防除対策

ア 本種の卵及び若齢幼虫は非常に小さく葉裏に産卵・寄生するため、発見が遅れ、成虫やすず病の発生後に気づくことが多いため、定期的に茶園の裾葉を観察し、早期発見に努める。

イ 放任茶園は本種の発生源になる可能性が高いので、適切な管理を行い、発生拡大を抑える。

ウ 本種は卵から蛹までの期間は葉裏で群生することから、整枝の時期や深さを工夫することで寄生葉を除去し、次世代の密度抑制を図る。

エ 薬剤で防除する場合は、卵と蛹は薬剤に強く成虫は効果が期待できないため、若齢幼虫期(1~2齢)に防除する。また、葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

オ 登録薬剤は下表のとおりである。

表 チャのミカントゲコナジラミに農薬登録のある薬剤

農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数	散布液量 ($\mu\text{L}/10\text{a}$)	使用時期	本剤の 使用回数	成分の 総使用回数
アプロード水和剤	ブプロフェジン水和剤	1000倍	-	摘採14日前まで	2回以内	2回以内
アプロードエース フロアブル	フェンピロキシメート・ ブプロフェジン水和剤	1000倍	200~400	摘採14日前 まで	1回	1回
ハチハチ乳剤	トルフェンピラド乳剤	1000倍	200~400	摘採14日前まで	1回	1回
ハチハチ フロアブル	トルフェンピラド 水和剤	1000倍	200~400	摘採14日前まで	1回	1回
ダニゲッター フロアブル	スピロメシフェン 水和剤	2000倍	200~400	摘採 7日前まで	1回	1回
ランネット45DF	メソミル水和剤	1000倍		摘採21日前まで	2回以内	2回以内
トノールS	マシ油乳剤	50倍		10~3月のみ	-	-
ラピサンスプレー	マシ油乳剤	75倍		10~3月のみ	-	-

* 農薬の適用内容は、平成21年9月2日現在



写真1 葉裏に静止する成虫



写真2 ミカントゲコナジラミ成虫



写真3 幼虫・蛹の寄生葉

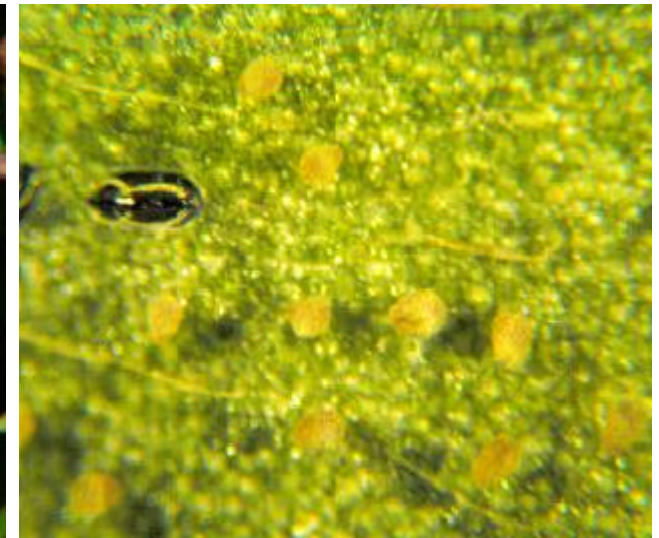


写真4 卵及び幼虫



写真5 蛹